専門教育科目「地理学概説」

# ウィズコロナの時代におけるフィールドワークの実施と課題

社会科教育　　張　貴民

## Ⅰ．授業の概要

地理学概説は教育学部 1 回生向けの専門教育科目である。地理学は地表面の諸事象の地域的特色や分布の法則を研究する科学である。講義では身近な地域から世界の地域までを具体的な事例としながら基礎的な知識を修得させ、地域的特色や地域的差異を理解する地理学的見方を身につけることを目的とする。なお、この科目は課程認定科目である。

授業の到達目標は以下の３つである。すなわち、①地理学（地誌学も含む）の基本概念を理解する。②地図とくに地形図の基礎知識を習得し、正しく読図できる。③それぞれの地域の特性を理解し、地域における人文事象と自然環境や歴史・社会・経済環境などとの関係を説明できる。

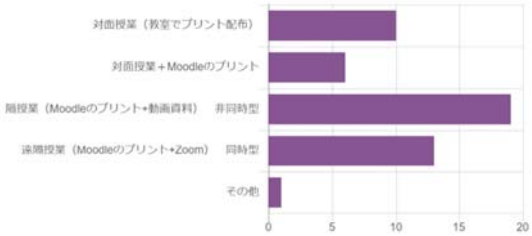
関連するディプロマ・ポリシー(DP) は、教育と教職に関する確かな知識と,得意とする分野の専門的知識を修得している。教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。教育現場で生じている様々な現代的諸課題について，専門的な知見をもとに，その対応方策を理論に基づいて総合的に考え，その過程や結果を適切に表現することができる。

また、授業内容と計画は以下である。第 01 回 ガイダンス、第 02 回 地理学と地理教育、第 03 回 地理学と地図、第 04 回 地理学と持続可能な開発目標、第 05 回 フィールドワークの意義と方法、第 06 回 フィールドワーク、第 07 回 主題図の作成と読解、第 08 回 フィールドワークの成果報告、第 09 回 地誌学の基礎、第 10 回 世界の諸地域、第 11 回 モンスーン地域の地理環境と生活、第 12 回 乾燥地域の地理環境と生活、第 13 回 低地の地理環境と生活、第 14 回 山地の地理環境と生活、第 15 回 まとめ・期末試験。

## Ⅱ．授業評価の方法と結果

2022 年 1 月 28 日（金）に授業評価に関するアンケート調査を無記名式で行なった。履修者 29 名のうちに 28 名から回答を得た。本年度の授業もフィールドワークを実施する予定であった。実施前のデスクワークを実施し、コロナの感染の推移を見計らって、2022 年 1 月 10 日（休日）に松山郊外で実施することを決定していたが、年明けてから、コロナ感染者の急増により、フィールドワークを中止せざるを得なかった。代替措置として土地利用図の作成を行なった。今回のアンケートはフィールドワークを中心に受講生の意見を聞いた。その主な結果は以下の通りである。

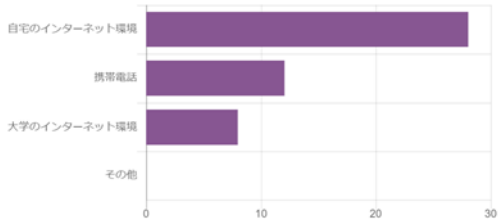
1. 新型コロナ禍のなか、望ましい授業方法は何であるか（複数選択可）。




受講生にとって最も望ましい形態の授業は「遠隔非同期型授業（Moodle のプリント+動画資料）であった。

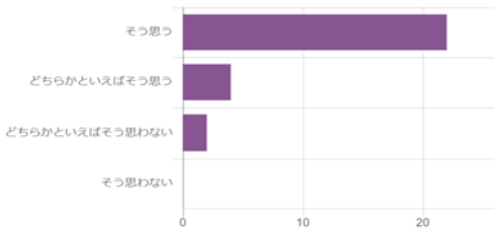
2. 遠隔授業の場合は、どんなネット環境を持っているか（複数選択可）。

この質問に対して、すべての受講生は自宅にインターネット環境を整備している。また携帯電話を使う受講生は 12 名いた。

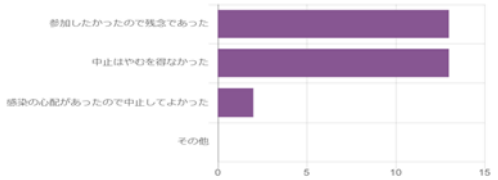



3. 対面授業で実施した GeoActivity（作図・読図など）について、授業内容の理解に有用であったか（複数選択可）。

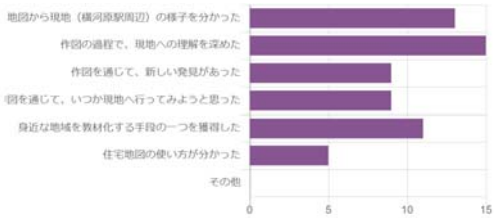
この質問に対して、受講者の殆どは内容の理解を深めるための GeoActivity（読図・作図活動）は重要である。今年度も数回の遠隔授業があった。遠隔授業の時に白地図の配布などができず、またプリンターを持っていない学生は Moodle で配布したものをプリントアウトできない問題があった。今後の検討課題である。




4. 計画していたフィールドワークが実施直前に中止されたことについて




5. フィールドワークの代替措置としては、GeoActivity において、土地利用図を作ったことについて




Ⅲ. 記述内容として、「コロナ禍のため、フィールドワークが中止された。それについて具体的な意見や、来年度のためのアイディアを教えてください。」の問に対して、次の代表的なコメントがあった。なお、学生のコメントはそのまま載せてある。

人数を何グループかに分けて実施することで、感染対策をしっかりと行ってフィールドワークをすることができるのではないかと思った。

受講者全員で行くのではなく、少人数に班分けして、密にならないようにして、フィールドワークを行う。

実際にビデオで、その土地を歩いている映像を授業中に見せて、受講者に土地の様子を理解してもらう。

実施できそうだったのにぎりぎりで感染が再拡大してしまいできなかったことはとても残念であった。コロナとは関係なくなってしまうかもしれないが、授業参加者との仲を深めるために、授業の序盤でフィールドワークを実施することもよいのではと思った。

グループに分かれてグループごとにフィールドワークを実施すれば少人数の移動なので安全なのではないかなとかんがえます。

コロナの中でフィールドワークを行うことはリスクが高いと思う。だから授業での説明などで補うことが重要だと思う。

個人的にその地に赴いて動画を取って共有するといった形にすればよかったと思う。

現地でフィールドワークができない、難しいのであれば、対面または遠隔授業において、Google のストリートビューなどを使用して現地の様子をできる限りリアルに伝える、現地写真などを撮影して説明するなどすれば、現地の空気は少しでも伝わると思います。

フィールドワークの中止は健康面を第一に考えるとしょうがないことだと感じた。特に町を歩いて探索するというのであればどのような場所でも難しかったのではないかと思う。ただ、町ごとの土地利用や整備方法などは実際に目で見てみたかったので非常に残念です。

フィールドワークの日程を決定するのがやや遅かったと思った。感染状況が落ち着いていた十二月に実施できればよかったと思うが、実施日のアンケートを取った時点では十二月はすでに各自部活動やバイトなどの予定が入っていたので一月の希望を出さざるを得なくなって、結果運の悪いことに一月に感染者数が増えてできなくなってしまった。フィールドワークのために先生もいろいろ考えてくださっていたのでできなくなったのはとても残念に思う。

フィールドワークはやったことがないのでどのような効果がるかはわからないが、先輩方に聞く限りとても有意義なものであったというので必要だと思った。もしコロナ渦で行うとするならば先生が端末をもって、通るはずだった道をカメラで映しながらリアルタイムで授業をする、または写真などを見せてもらう、Google のストリートビューを利用するなどが挙げられる。

その場に足を運ぶことができなかったとしても、誰かがフィードワークの映像を撮って、それを見せて共有することで、実際の土地利用等がイメージしやすくするといいと思った。

Ⅳ. 次年度の改善点

授業は概ねシラバスの通り目的を達した。受講生から指摘したようにフィールドワークを実施できず残念だった。Google ストリートビューの活用や現地で撮ったビデオを見せたりして、フィールドワークを工夫したい。